

多様な生物 共存できる鍵は

弘前大学農学生命科学部 生物学科の山尾僚助教(36)が参加する研究グループが20日までに、多様な生物が共存できる鍵は「ムダの進化」にあるとする新説を発表した。クジャクの雄の羽の派手な色彩や、シオマネキが巨大なハサミを振ってメスにアピールするといった「ムダ」が、生存のために効率が悪いにもかかわらず発達することを「ムダの進化」とし、現在自然界の研究で主流の強者が弱者を排除するという「競争排除」理論に一石を投じるユニークな内容。山尾助教は「生態系の新しい見方ができる」と期待している。

「ムダの進化」にあり

る。

「ムダの進化」に着目した研究は世界でも珍しいといい、東北大など8機関が5年ほどかけて行った。論文は、世界的に権威のある米学術誌「Trends」

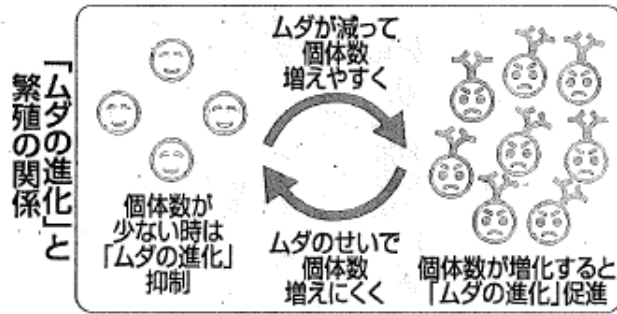


山尾僚助教

山尾助教(弘大)ら新説

in Ecology & Evolution」電子版に9日付で掲載された。山尾助教は主に、自身の専門分野である植物の生態

の発光やカプトムシの角などの「ムダの進化」を種



「競争排除」理論に一石

個体数の増減と関連付け、個体数が少ない時は「ムダ」が減少し子孫を残す効率が上がるが、逆に個体数が多い時には「ムダ」が増えて繁殖が抑えられるとした。過去の研究から得たデータをシミュレーションし、理論を構築した。

従来の「競争排除」理論では説明しきれない生物多様性の謎は、研究者の間で長年の課題となっており、山尾助教は「自然を見る際の一つの軸ができた。生態系の新しい捉え方を提案している」と研究の意義を強調した。

今後、引き続き研究を進め、この理論が実際にどれくらい生物に適用できるのか検証していく方針。

(渡部雅士)